

教育目標		豊かな心をもって、生き生きと遊ぶ子どもの育成 ―不思議発見！わくわくいっぱい！笑顔あふれるこうのいけー						
重点目標		安全・安心な教育環境のもと、「子ども主体」の遊びを支え、子どもの主体性を育む教育を推進する						
項目		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	生きる力の基礎を育む	主体性の育み	・遊び込む子どもの姿を捉え、内面の育ちを支える保育環境づくりを進める。	・遊び込む子どもの姿を捉えたエピソード記録のカンファレンスを学期に2回程度行い、多様な幼児理解や子どもの育ちを支える環境の構成や教師の役割について、共同研究園の職員と共に学び合う。 ・日々の園庭環境の構成の中で、教師間の連携を図り、遊び込む子どもの姿につながる環境を整え、教師の関わり方を共有する。 ・保護者アンケートにおいて、「幼稚園は、子どもの発達や興味関心に応じた保育を行い、子どもたちの意欲や主体性が育まれるように努めている」「子どもは、幼稚園で『遊び込んでいる』と感じる」「子どもに経験させたい遊びを工夫して取り入れていることをドキュメンテーションやクラスだよりから感じられた」と回答した割合が、それぞれ90%以上になる。	A	・遊び込む子どもの姿を捉えたエピソード記録をもとにしたカンファレンスを1・2学期に2回ずつ、3学期に1回行い、様々な幼児理解を深めることができた。また、年間通じて共同研究園でカンファレンス・保育公開を行い、遊び込む子どもを育てるための環境の構成のポイントについて共に学びを深め合ってきた。 ・短期案の振り返りを行い、次週の保育環境について共通理解を図り、教師同士の連携を取りながら必要な環境を整えることができた。 ・保護者アンケートにおいては、それぞれ100%、100%、98%の肯定的な回答を得ることができ、保育への理解を得ることができた。	・カンファレンスや保育の振り返りがより学び合いにつながるものになるように、話し合いの視点をより明確にしていく。 ・子どもが遊び込むことを通して学びを積み重ねることのできるような環境の構成の工夫、教師の役割について、次年度も共同園体制を生かし、教師自身が学ぶ姿勢を大切にする。	・先生方が一生懸命、保育を進められていることがよくわかる。
		自然とのかかわり	・園庭の草花や野菜に興味関心をもち、自然に関わることができるよう、季節や学年に応じた栽培計画を立て、四季を感じられるように園庭の環境を整える。 ・身近な自然事象について興味・関心が深められるよう、子どもの探究心、好奇心に寄り添い、発達年齢に応じた環境を準備し、異年齢の関わりの中で伝え合い、学び合いができるようにする。	・栽培計画のもと、園庭環境、花壇等を計画的に子どもと共に整え、四季を感じられるようにする。また、植物や野菜を栽培し、見たり触れたりし、栽培した野菜を食べたりする直接体験を得られるように、自然が身近に感じられるようにする。 ・発達の過程に応じた図鑑や絵本等、視覚的教材を準備し、自然物と関わる中で、好奇心、探求心、思考力を働かせる姿が増える。また、自然物を好きになり、自ら調べたり、観察したり、飼育する姿が増える。 ・異年齢の関わりの中で、植物や虫の種類、生態や飼育方法、天気の変化や気温など気づいたことを、調べたり、伝え合ったりしながら子ども同士で学び合い、自然事象に興味関心をもてるように、保育を行う。 ・保護者アンケートにおいて、「子どもは、自然への興味・関心が深まっていると感じる」と回答した割合が、90%以上になる。	B	・各学年栽培計画を立て野菜などを育てられるように、育った野菜を園で調理し食べるなどの経験をするなど食育に繋がる活動があった。 ・遊びの中で取り入れられるように園庭や花壇を整備した。しかし、花壇整備では、計画通りいかず、自然物に触れられない時期もあった。計画的に事前に準備して環境を整える必要がある。 ・季節ごとの持ち運べる個人図鑑や、月刊絵本を教材として取り入れ、好きな遊びの時間に、自ら自然に興味関心をもち、図鑑を見ながら様々な生き物や草花に触れ、調べる姿が多く見られた。 ・保育室に虫や草花の図鑑を手に取りやすい場所に置き、季節に応じた花や虫、自然事象（氷、雲）などの写真を掲示し環境を整えたことで、興味関心が深まり、調べたり試したりする姿が見られた。 ・保護者アンケートにおいては90%以上の肯定的な回答を得られた。	・四季を感じ、虫や草花に興味関心をもって、自ら調べる、観察する面白さを感じていけるように、引く続き環境の整備や、図鑑、視覚的教材などの準備をしていく。 ・計画的に花壇などの整備を行い、季節を感じられる自然物を植え、遊びの中に取り入れられるようにする。 ・教師自身も幼児と共に自然事象に興味関心をもち、保育の中で取り入れて、探求心をもって取り組めるような環境の準備をする。	・幼稚園でこそ、自然とのかかわりを大事にしてほしい。
	一人一人を大切にしている教育	特別支援教育の推進	・一人一人の発達の特性や実態を把握した支援計画や合理的配慮のもとに、スモールステップで目標が達成できるよう支援に努める。 ・保護者の抱える子育ての悩みに寄り添い、丁寧な傾聴を心がけ、家庭との連携を図る。 ・職員間においては、学年を超えた子ども理解の共有と連携を図る。研修会に積極的に参加する。 ・必要に応じて関係機関の意見を仰ぐ。	・子どもの発達や特性に応じた過ごしやすい環境の設定や支援を行うことで、園生活を自分の力で進めやすくなる。 ・保護者の悩みに寄り添い、丁寧な傾聴を行う。また、にじいろ保育にかかる保護者においては、保護者間の親睦を深められるよう、保護者懇談会を定期的に（学期ごとに1回）実施する。 ・保護者アンケートにおいて、「幼稚園は、個々の発達や特性に応じた指導を行い、一人一人を大切にしている」と回答した割合が90%以上になる。	A	・子どもの発達や特性や子どもの興味・関心に合わせた環境や視覚支援教材等を用いることにより、安心して過ごせたり友達と行事活動に参加できたりする子どももいた。 ・にじいろ保育にかかる保護者においては学期ごとに保護者懇談会を開催した。全学年で集まることにより、子育ての悩みを保護者間で共感できたり、意見交換ができていたりした。 ・保護者の悩みには要望に応じて懇談の時間を設け、気持ちが少しでも軽くなるよう丁寧な傾聴に努めた。 ・研修会に積極的に参加し資質の向上に努めた。 ・保護者アンケートでは98%の肯定的な回答を得ることができたが、当てはまらないという意見があることもしっかりと受け止めたい。	・子どもたち一人一人が安定して過ごせるよう情緒の安定を図る。 ・どの子にもわかりやすい視覚的な表示や心地よく過ごせる環境を整える。 ・保護者の抱える子育ての悩みは、様々なものである。今後も保護者への温かい寄り添いと丁寧な傾聴は大切にする。 ・にじいろ保育にかかる保護者の懇談会は悩みを相談したり、意見交換できたりする貴重な時間でもある。来年度も継続したい。 ・研修会には積極的に参加する。また必要に応じて関係機関の意見を仰ぎ、職員間で共有し、子ども理解と環境の見直しや関わり方の改善に努める。	・一人一人大事にした教育を今後も続けてほしい。
豊かな心・健やかな体	思いやりの心の育成	生命の尊重・道徳性の芽生え	・飼育や栽培を通して生命の大切にする、豊かな心を育む。 ・異年齢で関わりやすいように環境を構成し、子どもが色々な人との関わりを知り、優しさや思いやり、感謝の気持ちに触れられるようにする。 ・教師の道徳性を高め、研修を通して人権感覚を見直し、考える。	・生き物や栽培物の世話をする中で、一つ一つに命があることを知り、愛着をもって関わり、命を大切にしようとする姿が増える。 ・日常生活の中で、自由に他学年の保育室を行き来し一緒に遊んだり、園庭で関わりながら遊んだりする姿が増え、異年齢の友達と関わることで優しさや思いやりをもって行動するようになる。 ・保護者アンケートにおいて、「幼稚園は、誕生会や飼育栽培活動、身近な自然環境を取り入れた保育活動等、命にふれる機会を設け、命の大切さを感じさせている」「子どもは幼稚園で『人とかかわりの中で感謝の気持ちや相手に思いやりの心をもってかわれる子』に育っていると感じる」と回答した割合が、それぞれ85%以上になる。 ・年に2回、人権に関する北部ブロック研修会に参加し、教師間で話し合ったりすることで人権意識を高める。	A	・幼児の興味や関心に応じた飼育活動を行うことで、命のつながりに触れる機会がもてた。 ・各学年で野菜や植物を育てることで成長過程に興味をもち、意欲的に水やりをしたり観察したりする姿につながった。また、収穫した野菜を園で食べる機会をもつことで大切に育てようとする気持ちが高まった。 ・異年齢の関わりを教職員同士が意識して取り組むことで、好きな遊びの時間に異年齢で鬼ごっこやお家ごっこ等をして遊ぶ姿につながった。遊びの中で、年下の友達や困っている友達に優しく声を掛ける姿も見られた。 ・人権研修会に参加し、教師自身の意識改善に努めた。また、日頃の生活の中で子どもたちに向けている言葉について振り返る学級懇談会を行うことで、保護者と共に人権意識を高めた。 ・保護者アンケートからは、両設問共に96%以上の肯定的な回答が得られ、命の大切さや互いを思いやる道徳性の芽生えが培われていると評価された。	・引き続き、幼児の興味や関心に寄り添いながら、栽培やウサギの世話、昆虫の飼育を通して、命のはつながりや育みを感じることができるよう引き続き、進めていく。 ・今後も異年齢で関わる機会を大切にしたい保育を継続していく。 ・誕生会では、幼児 一人一人が愛情や成長の喜びを感じられるように保育を進めていく。 ・教師自身の道徳性を磨き、人権感覚を高めるための研修会に積極的に参加していく。 ・人権をテーマにした学級懇談を行い、日常生活を振り返って考えたり話したりする機会を大切にしていく。	・人との関わりだけでなく、動植物に触れることは、大切な経験だ。

開かれ信頼される学校園		健やかな体作り	基本的な生活習慣の確立	・子どもの実態を把握し、担任と養護教諭が連携して保健指導や保健学習を行う。 ・家庭と連携を図りながら、生活習慣を身につけていけるよう、定期的に「げんきカレンダー」を配布し、親子で健康に関する目標に取り組んでもらう。 ・健康に関する情報を、意識の向上につながるよう、ほけんだより等で家庭へ啓発する。	・子どもが自らすすんで、生活習慣を身につけようとする。 ・保護者アンケートにおいて『「ほけんだより」や親子で取り組む『げんきカレンダー』は、健康な生活を意識する機会となっている」「子どもは、「基本的な生活習慣や健康な生活について、意識をもち自ら取り組もうとする姿が見られる」と回答した割合が、それぞれ90%以上になる。 ・保護者への啓発として、月1回以上「ほけんだより」を配布する。	B	・幼児期に身につけるべき生活習慣を「げんきカレンダー」の目標にし、それに応じたほけんの話をする事で、子ども自身が取り組みやすいようにしているため、自ら取り組む姿が見られた。 ・ほけんの話では、子どもが積極的に話に参加し、自分の体を知り守るためにどうするかを考え、それを教師や友達に伝えようとする姿が見られた。 ・保健だよりの内容をその時期に合わせた内容にし、毎月配布することができた。	・個別への指導などを継続しながら、家庭と連携しながら、基本的な生活習慣の確立をめざす。 ・今後も引き続き「ほけんだより」「げんきカレンダー」を通じて基本的な生活習慣や健康な生活について意識を持つように、発達に応じ親子で取り組める内容にし、啓発していく。	・子どもの健康については、家庭との連携が欠かせないだろう。
		教育活動への理解の推進	家庭・地域との連携	・日頃の園生活や子どもの学びについて掲示やホームページなどを用いて可視化し、積極的かつ継続的に園の情報、子どもの学びを発信する。 ・小学校との連携・交流を図る。 ①校内研究会への参加、園内研究会への参加呼びかけ等、教師間の連携を進め、互いの教育についての理解に努める。 ②幼児・児童、双方にとって教育的価値につながる交流活動を探る。	・通用門横の掲示板や各クラス保育室周辺、ホームページなどを通してタイムリーに子どもの遊びの様子を伝えたり、遊びの中での子どもの学びを月1回程度等分かりやすく知らせたりする。 ・保護者アンケートにおいて、「えんだよりやクラスだより、ホームページや掲示板等は、幼稚園での行事や活動の様子、園の教育方針、子どもの学びや育ち等を知るのに役立っている」と回答した割合が、80%以上になる。 ・小学校の研究会に積極的に参加し、「主体的な授業改善」の取り組みから「遊び込む子ども」を育成するための保育実践について学ぶ。また、小学校教育の理解に努めると共に、架け橋期のカリキュラムについての学びを深める。 ・交流活動が幼児・児童にとって学びが深まる活動になるように、内容に応じた施設での交流を計画・実施し互いの幼児・児童にとっての学びを深める。また、その価値を保護者や地域に発信していく。	B	・通用門横の掲示板や、各保育室前に保育の様子の写真掲示を積極的に更新することができた。 ・保護者アンケートで肯定的な回答の割合が80%以上であった。 ・校内研に積極的に参加し、それぞれが日々の保育に取り組む中で、接続期を意識し今大切にすることは何かを考える機会を多く持つことができた。また、昨年度より小学校教員の自園園内研究会への参加人数が増え、学びのつながりについて実際の子どもの姿を通して意見交換する機会となった。今後は、架け橋期のカリキュラムについての学びをさらに深め、保育実践をおこなう。 ・双方の学習や学びとなる交流活動（1年生、2年生の生活科、学校行事の図工展、5年生との給食交流 等）も同様に捉え進めた。	・日々の保育の様子を掲示板やホームページを通して積極的に発信している。今後は、日々の様子だけでなく、保護者や地域に対し、子どもたちが遊びを通して、何をどのように学んでいるのかについて、自園における教育保育の理解が得られるように発信していく。 ・「幼児期から児童期の滑らかな接続」をめざし、小学校との連携や交流を深め、架け橋プログラムの推進に努める。 ・幼児・児童の交流については、年間プログラムが定着してきているので、今後は交流活動に留まらず、職員間の連携、学びを深めていくことができるように取り組んでいく。	・鴻池小学校との連携、交流は、小学校にとっても必要なことと捉えている。引き続き、取組を推進してほしい。
		安心して安全な園作り	危機管理の徹底	・施設内を点検し、危険箇所は写真を用いて可視化し、共通理解を図る。破損や危険箇所(設備・害虫等)があれば速やかに対応・改善する。 ・遊びの中での危険やけがを防ぎ、安心・安全に幼稚園生活を送れるように、危険箇所を報告しあい、職員全員で共通理解且つ改善に努める。 ・学校安全計画、事件事故への対応マニュアル及び防災計画、洪水時の避難確保計画を職員全員で確認し、様々な事象を予想した避難訓練(洪水、火災、地震、防犯)・通報訓練(火災、県警ホットライン)を実施する。 ・緊急メールを活用した緊急時の保護者への連絡と引渡しの訓練を実施する。	・園児が安全に過ごすことができるように、安全点検、破損や危険箇所の改善に向け毎月1回安全点検を実施し、迅速な対応を行う。 ・計画と子どもの実態に即して園児への安全指導(日常生活、幼年消防クラブ活動、交通安全指導含む)を行う。 ・職員の危機管理意識を強化するため、日常ヒヤリハットを迅速に伝達し合い、環境設定を見直したり、改善策を素早く話し合ったりしていくようにする。また、必要に応じて子どもへの指導の機会を増やしていく。 ・保護者アンケートにおいて、「幼稚園は、安全を意識した改善を行い、遊びを通して学ぶ場として、子どもが活動しやすい環境を整えている」と回答した割合が、80%以上になる。 ・年5回避難訓練及び通報訓練を実施し、反省点を踏まえて実践につなげるとともに、マニュアルや各計画を見直す。 ・安全カード、一斉メールを活用した保護者への連絡と引渡しの訓練を実施し、実情に応じた対策を検討する。	A	・子どもの実態に即して計画通りに行うことができた。5歳児の幼年消防クラブ組替式や出初式、幼児交通安全教室も子どもの意識向上を図ることにつながった。 ・安全点検を毎月行い、経年劣化による破損を除去したり、危険箇所はすぐに対応したりした。 ・子どもの思いがけない怪我など、有事の対処については、危機管理マニュアルを活用し、第1発見者からの伝達、迅速な対応、教師間の連携、他の子どもへの指示・誘導など職員誰もが対処できるようにすることが必要である。 ・保護者アンケートで肯定的な回答の割合が80%以上であった。 ・避難訓練を計画的に行えた。警察官を招いての不審者対応の防犯訓練では、実際に園児が居る中で行ったことで園児の誘導方法や、避難場所の適正など、本園ならではの立地状況から危険箇所や死角となる部分がわかり、効果的であった。また、地震時の引き渡し訓練では、鴻池小学校と共同実施することができ、スムーズに行えた。今後も連携を図っていく。	・自然災害等は予測できないことも多い。訓練や安全点検等を引き続き計画通りに行うと共に、有事の際に対応できるよう危機管理マニュアルの共通理解と活用など職員の危機管理意識の向上を図る。 ・防犯訓練での学びを活かし、園舎内の使用部屋の再考をおこない、園児がより安全で安心して過ごせる環境作りに努める。 ・園区が広がり、自転車通園が増えている。子どもだけでなく保護者のヘルメット着用も引き続き推奨していく。 ・川沿いの本園フェンス沿いの無断駐車が増加している。適宜対処していく。	・子どもの命を守る様々な活動は、重要で必要なことだ。

学校関係者評価総括

・今年度の取組を次年度も継続して、教育活動を充実させてほしい。

次年度に向けた重点的な改善点

本園の実践、取り組みに対して、一定の評価を得ている。次年度は、より充実発展させるように、職員間の共通理解を図り、具体的施策をかかげ、取り組んでいきたい。

自己評価の基準 A：目標を上回った B：目標どおりに達成できた C：目標をやや下回った D：目標を大きく下回った